



平成27年4月から始まる「子ども・子育て支援新制度」の概要と昨年12月に行われました「青木村子育てサポーター倶楽部」講演会の様子をお伝えします。

また、2月21日(土)～22日(日)には小学生対象に「信大YOU遊未来・青木」の『冬の大三角～あおきっこ探偵団～』が行われました。参加した大学生から感想を寄せていただきました。



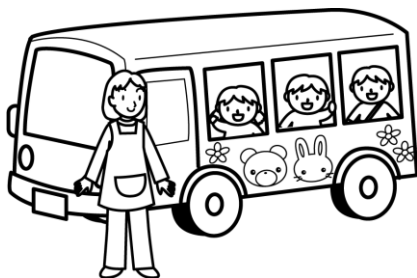
## 子ども・子育て支援新制度 が始まります。



平成24年8月、日本の子ども・子育てをめぐる様々な課題を解決するために、「子ども・子育て支援法」という法律ができました。この法律を中心に、幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援の「量の拡充」や「質の向上」を進めていく「子ども・子育て支援新制度」が、この4月から本格スタートします。

### 1 制度のポイント・・・次の3点について国で進めていきます。

- (1) 幼稚園と保育園の機能をあわせもつ「認定こども園」を全国的に普及していきます。
- (2) 保育の場を増やし、待機児童を減らします。また、子どもが減っている地域においては、身近な地域での保育機能の確保を支援します。
- (3) すべての子育て家庭のために、気軽に親子の交流ができる拠点の拡充や子育て相談ができる場所の確保等、地域のニーズに対応した多様な子育て支援を推進します。



### 2 青木村の取り組み

#### (1) 「子ども・子育て会議」の設置

昨年(平成26年)の11月、保護者の代表や子育てに関係す

る皆さん18名により組織されました。青木村の子育てに関する課題や改善策について話し合い、今後の事業の指針となる「青木村子ども・子育て支援事業計画」についても審議いただいています。

## (2)「青木村子ども・子育て支援事業計画」の策定

新制度への移行にあたり、国が定める「基本指針」に即した青木村の事業計画を策定し、地域の実情を踏まえ、今後の子育て支援について定めます。村内の子育て世代の285名の皆さんを対象にアンケート調査を行い、その結果も反映し事業計画を策定中です。

## 3 青木村で変わること

まず、変わるのは保育園の利用についてです。

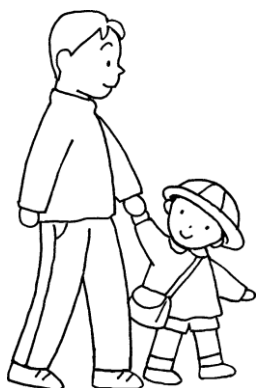
- 新制度では保育の必要量に応じて「保育標準時間（最大利用可能時間11時間）」と「保育短時間（最大利用可能時間8時間）」の区分で施設を利用します。また、それぞれに合わせた保育料の設定がされます。（保育短時間の利用が従来の利用と同等となります。）
- 保育料の階層区分についての判定は、従来は、児童の父母の前年の 所得税額 に応じて決定していましたが、新制度への移行に伴い、前年度の 市町村住民税の所得割額 に応じて決定されることとなります。また、従来、所得税額の算定にあたり、廃止となった年少扶養控除について、経過措置として控除しなおして再算定の措置がありました。この改正により経過措置もなくなります。その条件によっては今までの保育料と変動が生じる場合があります。



## 4 その他

今回、アンケートの結果や子ども・子育て会議での審議結果等から、次の点についても見直しが行われます。

- 延長・早朝保育の見直し（料金を細分化し、30分単位とします。）
- 土曜希望保育の拡充（12：30分までの預かりでしたが、17時までとします。その場合、延長部分については料金が発生します。）



以上、概略についてお知らせいたしましたが、詳しくは青木村保育園まで、お問い合わせください。





平成 27 年度から「子ども・子育て支援新制度」がスタートしますが、青木村ではそれに先立ち、昨年 11 月「子ども・子育て会議」を設置しています。また、地域少子化対策として「青木村子育てサポーター倶楽部」も同時期に設置し互いに連携を図っています。

昨年 12 月 25 日には地域の教育力を高めるため、倉澤誠先生（佐久穂町教育委員長）をお招きして講演会を開催いたしました。子育てのヒント満載のお話でしたので、今月号から 3 回に分けて紹介していきたいと思います。

## 倉澤 誠先生の 子育てで大切にしたいこと Part 1

ある雑誌に「どんな子どもに育てて欲しいですか？」という記事がありました。一番多かった回答が「やさしい思いやりのある子」でした。他には「何事にもへこたれない強い子」「良い悪いの判断が自分でできる子」「人に好かれ友達の多い子」というのが上位に上がっていて、同じくらいの割合でした。

それではそのような子どもを育てるにはどうしたらいいか、ということを考えてみたいのですが、私は、放っておいて自然にそういう子が育つ、ということは絶対にないと思っています。それなりの大人の関わりが必要で、そして何よりも子ども自身の気持ちが安定していなければ、思いやりやへこたれないなどの気持ちは生まれてこない、と思っています。

それでは、気持ちの安定のためにはどうすればいいでしょうか。3 点考えてみました。

### 1、自信を持つ

一点目は、自信を持てるようにするという事です。言葉を換えれば「自己肯定感、自己有用感、自尊感情を高める」ということですが、そのために大切な事は ①できるようにするという事と②ほめるということだと考えています。

「できるようにする」ということは成功した体験、満足した体験を積み上げていくこと、精一杯取り組めば成し遂げられる状況をつくるということです。

保育園の 5 歳の男の子のケースを紹介したいと思います。朝の 30 分の遊びの活動をした後、音楽が流れ、片付けをして体操の時間になるのですが、A 君は片づけをしな





いでブランコへ行ってしまおうんです。先生が何回声掛けをしても聞こえないふりをしてブランコに行ってしまう。そして、他の子ども達 2~3 人も一緒にブランコへついて行ってしまおう。担任の先生は 20 年以上のベテランで、こんなふうに子どもに無視されるなんてことは初めての経験でした。何日かそんなことが続き頭を抱えてしまい、園長先生や他の先生方に相談します。そこでその子は運動会でやる予定のなわとびが全くできない、ということが分かります。他の子がなわとびの練習をしている時、その子は他の所へ勝手に行ってしまうのです。なわとびが今その子にはすごく気になることではないか、なわとびができるようになればいいのではないか。先生は延長保育の時間に「私と 2 人でなわとびしない？できるように頑張ってみんなをびっくりさせようよ」と誘ったそうです。最初の数日は一回だけ跳ぶという日が続きましたが無理に長い時間やらせようとはしませんでした。そのうちに時間になると子どもの方から「先生、なわとびだよ」と言うようになり、「なわとび楽しい」とも言うようになりました。秘密の特訓のおかげで運動会では大成功、家でもすごく褒められたそうです。それから A 君の行動はすっかり落ち着きました。同時に A 君をまねて他の子ども達も片づけができるようになりました。

このように、「できるようにする」とは、すごく難しいことをできるようにするというものではありません。ちょっと後押しすればできるようになる、ということを見つけて取り組んでいくことが大事だと思います。

次に「褒める」ですが、褒めることは非常に難しいです。私もそうなのですが、子ども達のいい行動を見ても、すぐ「それは当然」と思ってしまおうんですね。「当たり前」と思って見過ごしてしまうんです。でもそれだと、子どもが今した行動はいいことなんだ、ということ子どもに伝えることはできません。黙っていても伝わりません。褒められて嬉しくない子はいないし、やる気の出ない子もいません。良いことは良い、と声に出して言いたいですね。



|   |
|---|
| 良い行動→褒められる→良い行動が増える→反抗減少・自信増加・意欲増加<br>→自己肯定感・自己有用感・自尊感情が高まる |
| 困った子→叱られる→認めてもらえない→反抗・自信なくす・意欲低下<br>→自己肯定感・自己有用感・自尊感情の低下    |

子どもの自己肯定感の低下は大人の責任だと思っています。大人の言い方が変われば子どもの気持ちも変わります。

(続く)



# 冬の大三角

岩澤ひかり

みんなと一緒に過ごしたあおきっこ探偵団、みんなにたくさんの「笑顔」があらわれていました。クラフト、料理、ご飯、ゲートボールなど全部が楽しくて、あおきっこと一緒に笑って過ごせたことがとても嬉しいです。この2日間の思い出は私の宝物です。ありがとうございました。



土屋孝将

私にとって、この探偵団があおきっこの最後の企画となりました。それもあつてか、この2日間は楽しさはもちろんありましたが、悲しさや切なさを感じるが多かったです。

最後になりますが、3年間、教育委員会さんをはじめとする青木村の皆さんに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

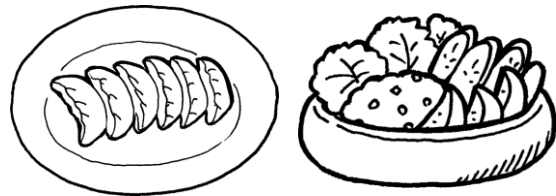


北村隼一

大学生活の集大成の学生企画、それがこの「冬の大三角～あおきっこ探偵団～」でした。子どもたちの笑顔、学生の笑顔が何よりうれしいことでした。あおきっこと共に成長してきた3年間！たくさんの思い出ができました。今後もこのつながりを大切に、あおきっこ、青木村の方々、学生の大三角がいつまでも強くつながっていくことを期待しています。

山田彩夏

今回のあおきっこ探偵団では、とくに子どもが主となって解決に向けて班の子どもたちと協力しながら考えていく姿が見ることができ、自分自身とてもいい経験になりました。子どもたちの真剣な顔を見て、今回企画に携われてよかったと思いました。



久保亮子（清泉女学院短期大学）

青木村の企画に初めて参加しました。当初戸惑いはありましたが、青木村の子どもたちの元気の良さに圧倒され、充実した時間を過ごすことができました。参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。

#### 畔上達也

「これであおきっこ探偵団を終わります」と言った瞬間、「やっと終わった」と感じる一方「終わってしまった」という寂しさがありました。活動を真剣に考え、取り組んだからなのかなと思います。6年生と活動ができないことに寂しさを感じるとともに来年の活動が待ち遠しいです。

最後になりましたが、一年間支えてくれた皆さんありがとうございました。



#### 小岩井啓

今回はあおきっこの活動に改めて参加しました。自分も青木出身ということもあって楽しみにしていた反面不安もありましたが、青木の子どもたちはとてもいい子たちで楽しく活動することができました。子どもたちの多くはたくさんあおきっこの活動に参加していてとても楽しそうでした。これからは僕も積極的に参加して子どもたちと一緒に多くのことを学んでいきたいと思いました。



#### 室橋美咲

私の班は、班としてのまとまりはあまりなかったですが、子どもたちがそれぞれ自分の楽しみ方で企画に参加していました。学生との触れ合いを楽しんでいる子、工作に精を出している子、友だち同士で最後のお泊りを満喫している子。たくさんの笑顔が見られました。

#### 大原佑里奈

私は料理係として参加し、夕食作りの企画をさせて頂きました。当日は食生活改善推進協議会から5人の方に来て頂き、皆で餃子とサラダを作りました。子どもと地域の方と学生が交流できる貴重な時間となりました。ありがとうございました。

#### 真先陸

今年度の青木の活動に全て参加し、今回のあおきっこ探偵団は今年度最後の活動でした。今回も先輩たちから多くのことを学べた活動になりました。地域の方が協力してくれるこの環境がとてもありがたいものだ改めて感じることもできました。

### 編)集)後)記)

平成27年度のはつらつネットワーク参加団体の活動計画表を作成いたしました。日程をご確認いただき、是非積極的にご参加いただけたらと思います。詳細は、各団体の代表者または教育委員会にお問い合わせください。